

## イギリス能楽交流の旅

尾崎純子

バラの花咲く美しい六月に、湖水地方やコッツウォルズへ旅をしよう。ついでには花鳥会（観世流能楽同好者とその家族・代表平戸仁英・参加者十八名）の仲間なので、過去に行ったミュンヘンやエクサンプロヴァンス同様にロンドンでも能楽のワークショップをしてみたいというのが旅の趣旨でした。

幸い私の知己のイギリス人ポール・コートニーさんは一年の半分を日本で暮らし日本語が堪能、しかも旅に精通しているので相談してみました。彼はイギリス内の同行ガイドは二つ返事で引き受けてくれましたが、ワークショップは初めてとのこと。それゆえゼロからのスタートでした。

まず花鳥会からどんな趣旨で、どういうプログラムでいいのかを提示して、ポールさんにロンドンでの交渉をお願い致しました。結果、ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）が実施とその準備（会場設営・プレスなど）を引き受けて下さることになりました。

会場は六十人余の収容と聞きましたが、ロンドン在住の私たちの知人数人を除けば、ロンドンには馴染みもゆかりもないので、果たして当日はどうなるのか蓋を開けねばならないというスリルに満ちたものでした。

六月七日イギリスに到着した私たちの旅では、まさに百花繚乱の大庭園や、美しい街並などを見物。最終行程のロンドンに近づく頃には、羊の群れる長閑な田園風景から目を覚ますために、バスの中で話の申合せをしてウォーミングアップをしました。

六月十二日は快晴。ホテルで着物と袴に着替え、タクシーでSOAS会場へ。

そこには私たちが予期しなかった程満員のお客様・八十人位、邦人とイギリス人が半々でした。二時からの講座と実演には観客の食い入るような熱心な眼差しを感じ、花鳥会のメンバーも体の熱くなるような思いで仕舞七番、連吟を演じました。また持参したDVDで能の一部や舞囃子の紹介もしました。

この後観客から熱心な質問が次々とあり予定をかなりオーバーして四時四〇分に盛会のうち終了。尚その後も、講師や会員に話しかけてくる方も多く「ぜひロンドンでもお稽古がしたい」との要望まで出たとのこと。微力ながら、能楽を学ぶ楽しさ、能の面白さをどの国の人達にも伝えたいという花鳥会の夢が、まさに広がっていくのを実感した愉しい旅でした。

（花鳥会幹事）